

将棋は相高・卒業生の宝^(※1)高普第5回卒 森 義男^(※2)

「こらッ。何をしている」担任の鈴木琢磨^(※3)先生である。私は吉川栄^(※4)君と机を将棋盤にしていたのである。昭和26・27年頃は将棋が盛んだったのである。将棋が縁で今でも吉川君とはライバルであり親友である。友人との切磋琢磨は大切である。琢磨先生も鬼籍に入られて久しい。今、私は先生のお孫さんたちと放課後子ども教室で将棋をして楽しんでいる。

同級生、星豊綱^(※5)君は県大会7回優勝の逸材だ。全国紙を賑わした偉大な先輩に米山幸男^(※6)氏がいる。東北大会優勝、全国大会準優勝の相馬棋友会の重鎮であり、屈指のアマ強豪である。もう一人は大鷲将人^(※7)氏であり、東北大会優勝、全国大会出場の母校、相高・東北大の名を高めた現役アマで、東北大・北門前通りに将棋囲碁店を開いている。

平成7年に退職した私は将棋の日に日本将棋連盟(東京・千駄ヶ谷)を訪ねた。そこに立谷純一^(※8)氏、表彰・祝賀会の大看板があった。偶然にも先輩の慶事に遭遇したのである。氏の日本将棋連盟支部連合会長永年の功績によるものである。これが縁で私は県の幹事長になったり、秘蔵の盤を頂戴した。ありがたいことである。

ところで星君は相双支部長、町商工会長、家業酒店経営。惜しむらくは本年病没。立谷氏は市議会議員二期・勲四等瑞宝章受章、家業醸造業は二男、健二氏(将棋も強い)に譲り、長男、秀清氏(相馬市長)の父として悠々自適。市の文化連絡協議会長、市教育文化功労者。他に市教育文化功労賞には先の米山幸男氏、佐藤光雄氏(県市役所将棋大会優勝(団体戦)の立役者、市監査役)も健在だ。

生涯学習地域文化教育の発展は人々を豊かにするばかりでなく、人々の心をつなぎ、相互扶助の精神に培われた広義の教育社会構築のために重要であり、将棋という対人競技が担う証しであろう。母校の生徒が将来有為な人材となるよう心を鍛え、ストレスを克服し、進路の糧として将棋に親しんでもらいたいものである。

我々相馬棋友会・そうま中央スポーツクラブ将棋サークルの面々は君達を道場(川原町78番地・会長島崎幸雄氏)でも出前講座としても歓迎するので活用していただきたい。尚くわしくは、道場にて先輩の大井博之^(※9)医学博士・小林弘之元会長ら各氏に尋ねられたい。

ここで少々、私が携ったエピソードを参考のためと思い述べてみる。福島高校に将棋部を創設。部員は熱心。県大会優勝、全国大会第3位。部長は二代続いて生徒会長、進学は東大・京都大・東北大・早大・県医大。主将は研究者となり全国学会・日下賞受賞。学業・生徒会活動・職業の両立を果たしている。

相馬の小学生S君は週一回私の家に通い、3・4・5・6年と県大会4連覇、小学生名人。自由研究部門で文部科学大臣賞受賞、見事であり、将来が属目されている。

次は退職校長会将棋クラブ創設（クラブ長・丹野鐵生^{※10}）。本年、市・関係団体の御支援のもと「社会を明るくする運動・法務省」第10回記念・プロ棋士招待の『相馬将棋祭り』を催した。瀬川晶司四段の「夢を貫く」の講演は参加者に大きな感銘を与えることができた。支援者荒秀一^{※11}氏の功績大である。

最後に私の将棋講座（中央公民館）より巣立った相高生諸君、将棋メソッドで目的達成。人生試練の旅に幸いあれと祈る。

将棋と人生・進路そして地域力の育成・伝統文化の継承は人材育成と相まって今日的な課題であろう。将棋が宝たる所以である。

私は将棋公認指導員（四段）をしている。

（※1）創立110周年記念誌『紅の旗』（2009（平成21）年1月発行）の「思い出の記」（ああ、我らが青春の日々よ）より。

（※2）昭和28（1953）年卒、中村出身。

（※3）相中第39回、昭和16（1941）年卒。太田出身。昭和23～32年・相高教諭。

（※4）相高普第5回、昭和28（1953）年卒、中村出身。

（※5）相高普第5回、昭和28（1953）年卒、鹿島出身。

（※6）相中第46回、昭和22（1947）年卒、中村出身。

（※7）相高普第14回、昭和37（1962）年卒、中村出身。

（※8）相中第42回、昭和19（1944）年卒、中村出身。馬城かわら版 第109号「幸せな世代の四十二回」。

（※9）相高普第1回、昭和24（1949）年卒、中村出身。馬城かわら版 第112号「当時の戦況と学徒動員」

（※10）相高普第7回、昭和30（1955）年卒、大野出身。

（※11）相高普第22回、昭和45（1970）年卒、山上出身。

（転記&※脚注 村山）